

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
1	1総合事業・生活支援体制整備事業 1介護予防把握事業	区民は「介護予防把握事業」と「フレイル予防事業」の違いは良く分からず、むしろ2事業を跨って継続したりすることが大切のように感じます。	介護予防把握事業とフレイル予防事業は担当部署が異なるため、今後も緊密に連携して2事業の展開のあり方を検討していきます。
2	1総合事業・生活支援体制整備事業 1介護予防把握事業	元気力については積極的に事業を推進していることは理解しているが、現在板橋区内で65歳以上の高齢者は132千人いるので、平成30年の実績から見て十分とは言えないと思います。もっと相談件数が増える方法を検討していただきたいと思います。	包括の窓口や元気力測定会以外に、地域で活動を行う団体への働きかけ等をおとして、相談機会の増加を目指して行きます。
3	1総合事業・生活支援体制整備事業 1介護予防把握事業	65歳以上の区民への測定会参加については、掲示板や回覧板はもちろん、町会長などから家族などにも積極的に呼びかけてもらうなど、パンフレットの郵送を少しでも多く活かすための地域ごとの協力を仰ぐアナウンスを行って欲しい。	昨年度はコロナ禍で測定会の中止があったため、掲示板等での周知は実施しませんでした。今後も状況を判断しながら、町会等への呼びかけも積極的に行いながら、参加者増に努めていきます。
4	1総合事業・生活支援体制整備事業 2地域リハビリテーション活動支援事業	「リハ終了者の通いの場へのつなぎ」「コロナ禍など災害対策」については、サロンリーダーや町会など、地域住民の方々の力をお借りする方向で事業を組み立てるのが望ましいと考えます。	ご指摘内容を踏まえて、今後具体的な取り組みを進めていきますので、引き続きお力添えをお願いいたします。
5	1総合事業・生活支援体制整備事業 2地域リハビリテーション活動支援事業	コロナ禍ではあるが、オンラインだけでなく、リハビリテーション専門職派遣も一定程度行われており評価される。	緊急事態宣言中はほとんど依頼がなく、例年よりリハビリテーション専門職は減少しましたが、今後も周知に努めてまいります。
6	1総合事業・生活支援体制整備事業 2地域リハビリテーション活動支援事業	リハビリテーション専門職の参加の取り組みが広がっているとあるが、もっと広がって行くのが良いと思います。	リハビリテーション専門職が更に様々な取り組みに参加ご協力いただけるよう、関係団体との連携を更に密にし、周知に努めてまいります。

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
7	<p>1総合事業・生活支援体制整備事業</p> <p>3 リハビリテーション専門職による住民主体型介護予防事業</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に拡大により外出を控える高齢者が増加している。少し回復傾向にあるがフレイルが進み外出できなくなった方も多い。近所で参加できる「10の筋トレ」は地域で高齢者同士が誘いやすく、集うことができ仲間づくりのためにも有用だと感じる。</p> <p>オンライン開催であるとPC操作が高齢の方には少しハードル高い方達もいらっしゃるのであれば、出向いてフォローするとか、操作方法をあらかじめリーフレット(すでに準備されているかもしれないが)があると良いと感じた。</p>	<p>オンラインに入るためのリーフレットがありますので、ぜひご利用下さい。また、訪問看護ステーションなどとの連携でオンラインに入る訪問支援も可能ですので、ぜひ連携をお願いします。</p>
8	<p>1総合事業・生活支援体制整備事業</p> <p>3 リハビリテーション専門職による住民主体型介護予防事業</p>	<p>コロナ禍はもちろん、ITの将来を想定しても、高齢者のITリテラシーの向上は急務であると考えます。</p>	<p>少しでも多くの高齢者がITの活用に興味をもっていただけるよう、事業内容を工夫し取り組んでいきます。</p>
9	<p>1総合事業・生活支援体制整備事業</p> <p>4生活支援体制整備事業</p>	<p>AIP全体の進捗状況による目標と、生活支援体制整備事業の目標を、もう少しシンクロさせる必要があるように感じます。第2層の次なる目標として、少し具体的な方向性を示すことが必要かと思えます。</p>	<p>生活支援体制整備事業は主として、板橋区版AIPにおける「介護予防、高齢者を地域で支えるまちづくり及び高齢者の社会参加」に寄与する事業であると考えております。</p> <p>現在、第2層では既に定期的な協議体の開催が定着しており、各地域で必要とされる活動や構成員等で実現可能な活動を検討し、実際の取組みにもつながってきている状況です。</p> <p>今後は、支え合い活動の創出や担い手の発掘、連携・協力先の拡大などを進めることによって、板橋区版AIPの理念の実現をめざしていきます。</p>
10	<p>1総合事業・生活支援体制整備事業</p> <p>4生活支援体制整備事業</p>	<p>既に、具体的な支え合い活動が創出されており、地域では活動が実施されています。今後、この流れは大きくなり、各地域で活動の創出と実施が拡大されていくと考えられます。また、地域共生社会の実現に向け、この地域住民による動きは大きな力になると思われま</p> <p>す。本事業の拡大、新規事業の立上げ、所管を越えた事業の連携などにより、この火を絶やさないようにすべきと考えます。</p>	<p>現在の取り組みを引き続き推進していくとともに、区の別部署との連携等も視野に入れ、更なる発展に取り組んでまいります。</p>

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
11	1総合事業・生活支援体制整備事業 4生活支援体制整備事業	第2層の協議体、またSCの選出によって、より地域に特化した課題・解決を見出せることを期待している。その上で、SCは概ね、どのような人が選出されるのか。町内会自体は高齢化の傾向にあるので、その担い手の確保・選出について地域でどのような努力や取り組みをされているのか知りたい。 また、今期、区の地域ビジネスのセミナーを介して、区内で訪問看護拠点を開設したチームがいる。看護師としてのキャリアも熱意もあり、すでに地域や区内の知人たちの相談で奔走しているが、例えば、第2層の協議体として参加することは可能なのでしょうか？	板橋区では第2層SCの選出は、協議体の設置前にあらかじめ決めておくのではなく、協議体が設置された後、話し合いや取り組みを進めて行く中で、協議体の構成員や地域の人材等から、互選で選出しています。 協議体の構成員による地域住民への啓蒙活動や、協議体の活動の一環として協力員を募る等の取り組みにより、担い手の確保に取り組んでいます。 各地域の第2層協議体への参加につきましては、地域ごとに取り組んでいる内容も異なりますので、参加の仕方も含めて、一度区までご相談ください。
12	1総合事業・生活支援体制整備事業 ①-3保健・医療専門職のサービス(短期集中通所サービス)	安心・安全に配慮は必須ですが、コロナ禍以前に行えていた内容が忘れないで、状況に応じてよい内容になるようできる協力を行いたいと考えます。	短期集中通所サービスについては、コロナ禍の中で一定の制約はありますが、実施方法も工夫しながら、状況に応じてた内容で、元気を向上できるプログラムを実施して参ります。
13	1総合事業・生活支援体制整備事業 ①-3保健・医療専門職のサービス(短期集中通所サービス)	障害のある方等と同様に情報の入手が困難な「閉じこもり」の方に係る情報はどのようにして、得ているのでしょうか。	閉じこもり高齢者に対しては、包括職員の訪問や電話により本人状況を把握し、ご本人にとって適切なサービス等の情報提供を行うことが一般的です。
14	1総合事業・生活支援体制整備事業 ①-4介護予防普及啓発	区の高齢者数等を考えると、もっと印刷部数が必要ではないでしょうか。	短期集中通所サービスなどの利用につながった人に対して、利用の効果を高めるために手帳を手渡ししています。今後はセルフマネジメントを含め、対象者を検討していきます。
15	1総合事業・生活支援体制整備事業 ①-8はすのみ教室事業	他の場所での拡大実施は考えられてないのでしょうか	他の場所での拡大実施についてですが、区民のニーズにあった場所、利用者数などを考慮し検討いたします。

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
16	1総合事業・生活支援体制整備事業 ①-8はすのみ教室事業	板橋区柔道整復師会では現在、「はすのみ介護支援事業体操教室」を行っています。1グループ10名を柔整師3名で、柔整師が考えた運動・体操を行う。1クール3カ月で、順次交代する。交代は抽選で全員が変わる。参加をされている方々より、人気があり毎回競争率が高いようです。参加者の体力や身体の状態を見てそのグループに合った機能訓練を行う事を主眼としている、また、利用者さんの要望に応じて、運動を行う。自宅でも出来る運動を指導して、身体が継続的に動いてスムーズな動きが出来るように心掛けている。また、運動の後には、個人の体に対する質問を受けて、少しでも快適に過ごせるように相談に乗っている。此のはすのみ教室は人気があり、抽選はいつも高倍率なので、指導者は、申し分け無いので、もう1教室が出来たらと要望している。	日頃より利用者様に寄り添った対応ありがとうございます。教室の追加についてですが、目安となる利用状況は令和4年1期でキャンセル待ち、体操・介護予防指導0人、腰痛・膝痛・転倒予防指導4人、ヨガ2人です。現時点では妥当な利用状況です。今後も利用者数、場所などを考慮し検討いたします。
17	1総合事業・生活支援体制整備事業 ①-12介護予防グループ支援事業 ①-13介護予防サービス評価事業	歯は大切な器官であるのは当然と考えられますが、認知症が進行すると歯の数が、不都合を起こす場合もある(義歯の取り扱いや、口腔ケアなど)ので、認知症と診断されたら歯科検診を強く薦めたい。また、歯科医院は初期の認知症を発見する重要な医療機関であるとの認識を歯科医療側ももっと持つ必要を感じています。	年1～2回の定期歯科健診受診で、歯科医療側から高齢者の些細な変化を発見できると思います。高齢者の活動団体への出張指導の際などに「かかりつけ歯科医」の重要性を周知していきたいと思います。
18	1総合事業・生活支援体制整備事業 ①-9公衆浴場活用介護予防事業	板橋区柔道整復師会では現在、「お風呂屋体操」を行っております。「お風呂屋体操」は原則「介護予防体操」が謳文句なので、比較的元気な方々が参加されています。1年間の予定で行い板橋区内の浴場の脱衣場で1箇所10名程度の人数で行います。中には途中で来られなくなる方もおられ、介護に移行されたのかとも思う方もおいでです。体操は「おとせん体操」を基本に行っておりますので比較的運動そのものは体に負担の掛からない動きかと思えます。運動は20分程度ですが後にお風呂に入るのが人気なようです。体操の後には、健康相談を行い、普段お医者様で聞けない事なども気軽に聞ける事が人気のようです。また、時間のある時は、健康から今の世の中の事情など幅広く話を致します。お年寄りの方々は、新聞もテレビもおっくうで、世情から徐々に離れてゆきます、特にコロナの時は顕著でした。私達が普段の施術の時と同じように、参加の方々と接しています。どの浴場も皆様楽しみに来ています。	日頃より利用者様に寄り添った対応ありがとうございます。引き続き事業の継続を図っていきます。
19	2医療・介護連携 1療養相談室	今年度は新型コロナウイルス感染症対策に関する事業もあり多忙を極めた部署であると思う 「こんなこと相談しても良いのかな」「こんな相談が多かった」など(以前にAIPの広報誌に掲載したように)、事例を提示して住民に再周知しても良いと思う	貴重なご意見ありがとうございます。今後の事業の参考にさせていただきます。

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
20	2医療・介護連携 1 療養相談室	目標件数を大幅に超過したということは、多くの相談需要があるという言うことであり、本事業の一層の充実が求められると考えます。	貴重なご意見ありがとうございます。今後の事業の参考にさせていただきます。
21	2医療・介護連携 2医療・介護連携情報共有システムの検討	コロナ禍において、医療介護連携があまり進められなかったことを教訓に、クラウド情報などを共有する方法を具体的に進める必要があると思います。	医療・介護連携においてICTの活用を推進していけるよう、情報共有システムの利用に関するガイドラインを作成し、在宅療養ネットワーク懇話会など多職種が参加する機会をとらえて意見聴取を進め、その内容についても検討していきます。
22	2医療・介護連携 2医療・介護連携情報共有システムの検討	やはり、各事業所で異なるシステムを活用していることから、なかなか情報の共有は難しい。どこまで情報を共有すべきかといった問題もある。しかし、東京都多職種連携ポータルサイトによってつながった事業所間もあり、医療と介護の垣根を越えて緊急を要しない情報共有には有効だと思う。	「東京都多職種連携ポータルサイト」の利用普及等も含め、医療・介護連携においてICTの活用を推進していけるよう、情報共有システムの利用に関するガイドラインを作成し、在宅療養ネットワーク懇話会など多職種が参加する機会をとらえて意見聴取を進め、その内容についても検討していきます。
23	2医療・介護連携 2医療・介護連携情報共有システムの検討	コロナ禍で、災害対応同様に対応したかったが、個人情報の取り扱いが厳しく、今後に不安が残った。	在宅療養ネットワーク懇話会などを通じて、医療・介護専門職の皆様とも協議し、対面での連携が難しい状況下における情報共有のあり方等についても検討を進めていきたいと考えております。
24	2医療・介護連携 3多職種による会議、研修(ア 板橋区在宅療養ネットワーク懇話会)	コロナ禍となり、対面での開催は難しい現状があると思うが、以前から感じていたことは、この懇話会は多職種の集まりではあるものの管理者や責任者の参加が多く、誰のための集まりだと思うことがあった。現場で働く方達には届いていない気がする。もう少し、そのような方達へも広められるような会議、研修であれば有効だと思う。オンラインであれば、その実現も可能だと感じた。	令和3年度における、在宅療養ネットワーク懇話会につきましてはオンラインで開催し、登壇いただいた先生方のご講義を区公式YouTubeチャンネルにて配信することで、どなたでもご自由に視聴できるような仕組みづくりができました。このような取り組みを踏まえ、次回以降もより多くの現場の方々にもご参加いただけるような仕組みづくりを行っていきたく考えております。
25	2医療・介護連携 ②-1 医療・介護・障がい福祉連携マップ	区内の事業所の登録者数が57%という理解で良いのか？掲載を拒む事業所もあるだろうが新規事業所やまだ、周知されていない事業所があるのかも知れない。また、どのくらい利用されているのかアクセス数で活用状況を把握できると良いと感じた。	医療・介護・障がい福祉連携マップにおける区内の事業者登録数が、現在57%というご理解で問題ございません。新規の事業所につきましては、順次、MAP登録への周知・勧奨に取り組んでおります。サイトへのアクセス数につきましては、事業実施状況の報告等で活用できないか検討してまいります。

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
26	2医療・介護連携 ②-1 医療・介護・障がい福祉連携マップ	医療・介護・障がい福祉連携マップとは、どんなものなのか見たことがない。	医療・介護・障がい福祉連携マップシステムは、板橋区内にある医療機関や介護サービス事業者などを検索できるシステムで、区内にある医療機関の情報を調べたり介護サービス事業所の空き状況などを調べることができます。 区の公式ホームページから閲覧いただくことができますが、認知度を高められるよう、事業の周知・啓発にも努めてまいります。
27	2医療・介護連携 ②-2在宅患者急変時後方支援病床確保事業	100%の利用率を維持とありますが、不足しているのではないのでしょうか。	病床が不足しているという報告は現在のところありません。今後の事業の参考にさせていただきます。
28	3認知症施策 1認知症初期集中支援事業	認知症の施策として様々な取組を行っていますが、現実として介護者が1人で悩みを抱え込まないように、また老々介護等さらに検討対策が必要と思います。	家族介護者支援としては、認知症の方を介護する家族のための交流会・講座、認知症カフェ、ごいっしょサービス等がございます。しかしながら、おっしゃる通り、老々介護等課題は散見されます。今後も、ご家族の声を聞き、課題解決のための対策を検討してまいります。
29	3認知症施策 1認知症初期集中支援事業	地域包括毎に書面やオンライン会議などを活用し、また個別ケースについては密にならないように配慮しながら訪問もしている様子で、柔軟な対応が伺えた。	板橋区医師会やおとしより相談センターのご協力があり、事業が円滑に実施できております。今後ともよろしく願いいたします。
30	3認知症施策 ③-4あんしん認知症ガイド(板橋区版認知症ケアパス)	板橋区の「あんしん認知症ガイド」のバーコードよりyoutube“本人座談会”で、認知症当事者の本音や実体験を聞いて、改めて認知症サポーターの大切さを感じるとともに、社会全体での認識が大切だという…、まさにAIPの考え方を実感した。今後、「自分自身が地域や社会で生きる」という気持ちで、認知症フレンドリーの講座を受け活動支援に繋がりたいと感じた。	まずは、動画の視聴について、感謝申し上げます。令和4年度も認知症フレンドリー講座の開催を計画しております。周知は、ホームページや広報等で、実施する予定ですので、ご確認いただけますと幸いです。

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
31	3認知症施策 ③-7認知症声掛け訓練	認知症サポーターの方からの認知症の方の連絡実績はどのくらいあるのでしょうか。	ご質問いただいた内容に関する実績は、区では把握しておりません。認知症サポーターは令和3年3月31日現在28,908人います。認知症に対し正しい知識を持ち偏見を持たないこと、温かい目で見守る等、ご自身の可能な範囲での活動をお願いしているものになります。故に実績を報告してもらおう類のものではないと考えております。
32	4住まいと住まい方 1高齢者見守り調査事業	最近では民生委員も不足して、負担を感じる方も多いと聞いていますので、行政のサポートも必要ではないかと思う。また個人情報等の対策も必要と思います。	今後の高齢者数の増加に伴い、民生・児童委員の負担も増加することが予想されます。区では、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の流行による対策と合わせて、高齢者見守り訪問事業における、民生・児童委員の負担軽減を進めており、個人情報の保護とあわせて、引き続き業務の最適化に努めて参ります。
33	4住まいと住まい方 1高齢者見守り調査事業	コロナのために訪問に来るのを恐れている区民の方と、もしも自分が無症状の陽性者だったら訪問先の区民の方を感染させてしまうのではと恐れている民生委員と、両方がいて訪問が難しい状況だった。だが、そのようなときだからこと、より一層みんなで励まし合いながら支えていける方法が必要だと感じた。	民生・児童委員の皆様におかれましては、コロナ禍での感染のリスク等のある難しい状況であったにも関わらず、訪問調査を行っていただき、感謝申し上げます。区として、区民と民生・児童委員の双方の感染リスクを下げつつ、区民の生活実態の把握を継続できる方法を検討して参りますので、引き続きよろしくお願いたします。
34	4住まいと住まい方 2ひとりぐらし高齢者見守り対象者名簿事業	「登録者の減少傾向」の理由について、区はどのように考えているのでしょうか。この事業で得られる情報は、様々な分野で生かすことができ、特に、災害などの緊急時に力を発揮するものとなるので、趣旨をよく説明し、登録のご協力を強くお願いすべきと考えます。	本事業は、主となる登録の勸奨形態が訪問であるため、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の訪問を行うことができず、登録者の減少に影響を及ぼしていると考えられます。民生・児童委員の皆様やおとしより相談センターへの周知協力依頼、区の広報物への掲載を通して積極的に周知を図って参ります。
35	4住まいと住まい方 2ひとりぐらし高齢者見守り対象者名簿事業	ひとりぐらし高齢者の登録数については、今後2050年まで重要であるので、情報の適確な集約に引き続き務める必要がある。	民生・児童委員の皆様への周知依頼や区の広報物への掲載を通して積極的に周知を図りつつ、登録者情報の更新にも努め、適確な情報集約を行って参ります。

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
36	4住まいと住まい方 3見守り地域づくり協定	協定先からの情報は、どこで集約し、具体的対応を行うのでしょうか。協定先が増えるほど、情報量が増加し、対応が困難となる心配はありませんか。対応が十分になされないと、情報が活かされず、協定先の信頼を失うことにもなりかねません。体制の整備が重要と考えます。	協定先の事業者様には、日常の業務の中でのゆるやかな見守り等を業務に支障のない範囲で行っていただいています。また、何らかの異変を察知した際は、その内容に応じて事前に定めた区の関係機関に連絡してもらうこととなっており、連絡を受けた部署が適切に対応を行うこととしております。見守り体制の整備につきましては、協定先事業者とも協議・連携し、継続して行って参ります。
37	4住まいと住まい方 ④-1 緊急通報システム事業及び ④-2高齢者電話訪問事業	両事業とも、高齢者数等を鑑みると、一層の推進が必要と考えます。	<緊急通報システム事業> 他の事業同様、必要とする高齢者に必要なサービスが提供できるよう今後も周知を図ります。 (参考:R3年度新規設置171台、喪失151台) <高齢者電話訪問事業> 高齢者数の増加状況・区民ニーズに合わせて、周知・推進するよう検討してまいります。
38	4住まいと住まい方 ④-3高齢者見守りキーホルダー事業	高齢者にとってキーホルダーは力強い持ち物だと思います。しかし、現在は未だ未開拓部門であり、希望者中心になってしまっているのではないのでしょうか。出来る限り、65歳以上の高齢者には、多くの人が身に着ける生活が出来るようにして欲しいと思います。	高齢者見守りキーホルダーにつきましては、高齢者宅の訪問時や地域の各種イベントや老人クラブ・サロン等に出向いた際に、登録の勧奨や事業の普及・啓発等を行っています。今後は、協定事業者等とも連携し、必要な方に利用していただけるよう、引き続き普及・啓発に努めてまいります。
39	4住まいと住まい方 ④-8民間賃貸住宅における居住支援	賃貸契約締結に至った総数は把握されているのでしょうか。	把握していません。
40	4住まいと住まい方 全般	新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで以上に高齢者の自宅で過ごす時間が増えているので、室温などの住宅環境も考える必要があると思われる。	区では、ひとり暮らし高齢者を主な対象として、民生・児童委員の方からの熱中症の注意喚起を実施しています。その他、高齢者向けの住環境を整える上で必要となる情報につきましても、関係部署とも連携して、引き続き協議・検討を進めて参ります。

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
41	5基盤整備 3看護小規模多機能型居宅介護	もっと増えることを期待したい 特にコロナ禍で入院を拒んだり、躊躇する利用者の中で、介護者の休息のための利用や環境的に在宅での療養が難しい方、医療ケアがある方などが日頃から関係性が構築されている看護、介護スタッフのいる施設で過ごせることは利用者、家族にも安心感があると思う。 ただ、経営的、人員確保、職員の質の均てん化についてはハードルが高く経営を検討している方へは資金的支援(補助金など)を含めバックアップが必要だと感じている。	認知症高齢者グループホームとの併設施設について、令和5年度の開設に向け、募集する圏域の拡大、施設整備費補助金の増額、公募期間の複数回設定等を内容として、年間を通じた形で、4月から公募を開始しています。なお、看護小規模多機能型居宅介護単独での開設であっても、応募できる形としています。
42	5基盤整備 3看護小規模多機能型居宅介護	応募も少なく、必要な地域に募集を継続お願いしたい。	同上
43	5基盤整備 全般	応募も少なく、必要な地域に募集を継続お願いしたい。	施設の開設に関して事業者から問合せがあった場合、整備が必要な圏域であるかや、整備費補助金交付について説明しています。その際に、該当圏域ではどのサービスの設置が必要であるかを伝えています。
44	7啓発・広報	指標が「令和元年調査より上昇」とあるが、周知度を測る調査は毎年できるわけではなく、既にいつ次の調査が行われるかは予定されているはずである。「R〇年度に実施予定の調査において、AIPの周知度が上昇する」とことと書いたほうがよい。 ただ、これだと各年で評価のしようがないので、他の事業と揃えるならば、アウトカムでなく、プロセス(つまり広報誌の発行回数やポスターの印刷部数など)を設定した方が良いかもしれない。 指標の、「R1の調査よりも上昇」ではあまりに曖昧な印象で、0.1%でも上昇するばいいのか疑問を感じる。どのくらいの上昇幅が出るように活動を行っているのか示すべきであるし、それができないなら指標として設定すべきではないのではないか。	この事業指標につきましては、「板橋区高齢者保健福祉・介護保険事業計画2023」の策定にあわせて、指標を設定いたしました。そのため、現時点で指標を再設定することは難しい状況ではありますが、委員のご意見を踏まえて、次期計画策定時において、指標の設定やあり方について再度検討し、事業進捗の明確化を行ってまいります。

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
45	7啓発・広報	<p>AIP広報誌「住ま居る～いつまでも笑顔で～」は、きれいな誌面でイラストや漫画が親しみやすいと思う。</p> <p>現在、新聞を購読していない家庭が多いことから、折り込みよりも地域の町会などから各戸配布なども検討してほしい。良い広報誌なので、もっと区民に周知拡大できると良いと思う。</p>	<p>現在は、新聞を購読されていない方々にもお届けできるよう、地域包括支援センターや区関係機関などへの配架や、協定締結事業者による配布協力等により、広報誌の周知・配布を行っています。</p> <p>今後、町会回覧等の実施も視野に入れ、より効果的な配布方法について検討してまいります。</p>
46	7啓発・広報	<p>高齢者にはいまだ馴染んでいないように思います。なお一層のPR活動が必要とと思います。現在考えている掲示等とは別に、医療機関や薬局でもPRすると高齢者の目に留まる機会が増えると思います。</p>	<p>医療機関や薬局等には広報誌を配架させていただいているところではありますが、効果的な事業周知・広報についても検討し、更なる周知拡大に努めてまいります。</p>
47	7啓発・広報	<p>「AIP」という考え方を高齢者だけでなく、若い世代から浸透させることが必要だと思う。</p>	<p>板橋区版AIPは、高齢者をターゲットにした施策・事業ではありますが、ご指摘のとおり、AIPの目指す姿となる「いつまでも住み続けることのできる地域づくり」という考え方を、若年層にも浸透できるよう、周知・啓発方法の検討を進めてまいります。</p>
48	7啓発・広報	<p>周知が足りない地域もありますので、今後の周知方法として地域センター支部などを活用して積極的な広報が必要とと思います。</p>	<p>板橋区版AIPの事業周知・広報について、各地域センターや町会・自治会の皆様への協力依頼も視野に入れ、さらなる周知拡大に努めてまいります。</p>
49	7啓発・広報	<p>AIPなどローマ字やカタカナが増えているが、当事者に浸透しやすいのだろうか。この観点でも一度検討してもらいたい。</p>	<p>専門用語や聞き馴染みのない言葉は避ける、もしくは注釈をつける等の工夫を行っていますが、より読者に伝わりやすいよう創意工夫を行ってまいります。</p>
50	AIP全般	<p>近年、風水害や新型コロナ感染症など、平常の生活が営めない状況が続いており、今までのサービスが受けられない状況が続くことも検討していけないと思います。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響等による環境変化に対応できるよう、オンラインを活用した事業開催等につきましても検討し、引き続き板橋区版AIPを推進してまいります。</p>

議事 板橋区版AIPの現状と今後の取り組みについて

	項目	委員意見	区 回答
51	AIP全般	<p>コロナ禍で地域の絆が希薄になってしまったので、そのような状況でも地域とのつながりをもてるようになると良い。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた事業等につきましても、実施可能な形式等を検討し、徐々に活動を再開しております。 コロナ禍のように対面での交流が難しい状況であっても、安全面にも配慮した形で各種事業を継続できるよう、引き続き検討を進めてまいります。</p>
52	AIP全般	<p>印象として、多くの業種や地域の方々と一緒に進めることや、区民への周知に努力されている姿勢が感じられて、大きな進展を感じました。 私自身は全く違う仕事を持っていますが、両親の介護をお世話になった区民として、今後、少しでもAIP構築に向けて考え、協力していきたいと思います。</p>	<p>板橋区版AIPのめざす姿である、「年を重ねても安心して住み慣れたまちに住み続けること」の実現に向けて、地域住民の皆様、専門職の皆様と連携・協働し、各事業を推進してまいります。引き続きご協力をお願いいたします。</p>
53	AIP全般	<p>民生委員の皆様の周知のおかげで、コロナワクチンの予約が必要ということが幅広く伝わったが、電話してもなかなか予約につながらないといったケースもあったと聞いております。高齢者がスマホやPCを上手く扱えるよう、支援を進めていく必要があると感じました。</p>	<p>区におきましても、ふれあい館等で「パソコン相談会」や「スマートフォン体験教室」など、高齢者の方向けのIT講座を実施しておりますが、引き続き高齢者のICT利用促進に向けた支援の検討を進めていきたいと考えております。</p>